

# 当たり前を大切に 今こそ創ろう！ニューカルチャー

～ くましろ祭2020 ～

南あわじ市立神代小学校6年生 男子20名女子15名 特支（情緒）男子1、女子1  
兵庫支部 淡路ブロック 南あわじ市立神代小学校 岨 賢二

## 1 はじめに

昨年度3月初旬によるコロナウイルス拡散防止による全国一斉休校から、本校も6月まで、数日の登校日はあったものの、約3ヶ月間の臨時休校を余儀なくされました。その間、本校がある南あわじ市も「運動会や水泳の中止」「市の陸上競技大会の中止」が決定しました。また、「教科学習の網羅や市が指定するコアカリキュラム（南あわじ市の伝統芸能の学習）は必ず行うこと」「新しい生活様式、学習様式」が支持され、徹底した管理教育になっていきました。これらの決定事項について、多少の戸惑いはあったものの、私自身「まあしかたがないか」と思っていました。

### 「ピンチをチャンスに」

しかし、休校中の子どもたちの日記には次のようなことが書かれてありました。

**「休校になって最初はうれしかったけど、だんだん長引くにつれて友達に会いたい、みんなと勉強したいという気持ちがつよくなってきました。こうなったから、普段、僕たちはとても幸せな生活を送っていたことに気がきました。（こうだい）」**

**「家で一人で勉強していてさみしい。友達といっしょに授業がしたい。（たいが）」**

**「友達に会いたい。友達と遊びたい。（いさ）」**

私たちがコロナに振り回されている中、本当に大切なことに目を向けはじめていたのは、目の前の子どもたちでした。こういった子どもたちの要求を目の当たりにし、「教育の本質」について子どもたちから改めて教えられたような気がしました。「こんなときだからこそ、子どもが本当にしたい学び」について考え、実践していかななくてはいけないのではないかとそう思うようになりました。

そして、「りお」の思い……。

## 2 児童および職員について

### （1）抽出児『りお』について

「りお」は3年生のときから地域の「バレー部」に所属していました。そして、昨年11月（5年生）にバレー部の問題（人間観関係）が発生しました。「りお」への攻撃をしていた児童は数か月後に学校を転校し、「りお」は不登校になってしまいました。問題は4年生のときから続いていて、「りお」は家で自由帳いっぱい「死にたい」と書いていたそうです。問題が起きてから数日は学校に登校していましたが、過度に周りの友達や教師の目を気にするようになり、「転校させたのは私の責任」と自分を追い込むようになりました。そして、不登校。2学期の後半から3学期にかけて、ほぼ学校に登校できない日が続きました。ただ、「りお」は学習面については問題なく、一人でいる間も自分で学習を進めることができていました。

しかし、2月下旬に「全国一斉休校」を知り、「このまま5年生が終わるのは嫌だ。」という意志から、最後の3日間は頑張って登校してきました。6年生になってからも4月の3日間と休校中の登校日もすべて登校しました。

休校中の「りお」の日記

**「自分達がリーダーとなって活躍できる運動会がなくなって悲しいです。」**

学校が再開されたときの日記

**「当たり前を大切にしたい」**

「しかたがない」と思っていた私でしたが、「りお」の思いを知り、普段のような運動会はできないにしても、「子どもたちとともに創り上げるみんなが主役の運動会」ができないかと考えるようになりました。

学校が再開（6月）されてから2週間がたったぐらいから、少し様子がおかしくなり、1日だけ休みました。「休み時間に一人でいることが多い」「友達にいやなことを言われた」と家では言っていたそうです。ただ、お母さんとしては「りお自身になんとか乗り越えてほしい」という思いでした。

登校日はあったといえ、約半年間、家で家族以外の誰とも会わずに一人で過ごしていた「りお」にとって、学校や学級に自分の居場所が見つからないのだと思いました。しかし、それでも2週間頑張って登校し、休んだ次の日から登校している「りお」。必死に何かと戦っているように思いました。

6年生の特別支援の先生に「りおちゃんは他の子が見えてない世界が見えているのかもしれないね。周りをよく観察しているよね。」ということをお教えしてもらいました。

そのようなことから、本実践の運動会の「実行委員長」を「りお」にしてほしいと思いました。「周りの目を気にする」ではなく「周りをよく見ている」といった「りお」の特性を活かして、みんなの思いをくみ取り、みんなで一つのことを創り上げていくことの大切さを学んでほしいと考えました。また、委員長として、校長先生に交渉に行ったり、保護者の人や地域の人に「バックアップ」のお願いをしたりする活動を通して、自分たちを支えてくれる人々の思いに気づいてほしいと思いました。

教師が「りお」の居場所をつくるのではなく、「りお自身」が友達や大人との対話を通して、違いを認め、ともに学んでいくことで自分の世界を広げ、生活を豊かにしていってほしいと願いました。

## （2）神代小学校教職員について

本校は各学年1クラス、特別支援学級が2クラスの8学級です。職員は20名おり、管理職については、本年度に校長と教頭の2人が変わっています。校長は前年度まで中学校で勤務しており、小学校での勤務は人生で初めてです。教頭については昨年度まで主幹教諭をしており、これも初めての管理職です。年齢層の高く、臨時教諭を除いては私が一番若いです。ほとんどの先生方がこれまでの私の提案に理解を示してくれています。

今回の運動会の中止のときも、「せっかく6年生としてリーダーシップを発揮できる場なのに。」  
「なんとか別の形でもやることはできないか。」といったようにともに現状を打破しようとしてくれています。そのため、運動会の提案についても肯定的に捉えて頂いています。また、「学級の子だけでなく、下級生と関わったり、まとめたりしていくことでりおちゃんにとっていい経験になる

と思う。りおちゃんに頑張ってもらいたい。」といったように、「りお」や6年生をバックアップしようとしてくれています。また、5年生の担任（特活・児童会担当）もとても協力的で、「できることがあったら言ってね。児童会は任せてください。5年生もできたら運営などにも加われたらとてもいい経験にもなるし、来年度につながっていく。」と言って頂きました。

管理職についても、「やろう！やろう！ぜひやりましょう！子どものためになるんだから！（校長）」「チャンスですね。これからの運動会を考えるととてもいい機会になる。子どもたちが自ら創っていくような、子ども主体の運動会にしていきたいと思います。（教頭）」という言葉を受けました。子どもたちも職員もみんなで「運動会のあり方」を考えるととてもいい機会になりそうだと思います。素晴らしい職場に恵まれたのだと思います。

### 3. 指導にあたって

#### ○ 実行委員・各委員会の設定

本実践では、6年生で各委員会を設定することとします。実行委員（6年生学活係）については、「校長交渉」「保護者へのお願い」「閉会式、開会式の司会」「選手宣誓」などの役割を担うようにします。

#### 各委員会の設定

企画・運営	運動会当日の役割分担、前日の準備、運動会までのスケジュールの管理、他学年の演技（競技）の確認
全校演技（競技）	全校生で行う演技（競技）および練習内容の決定
6年演技（競技）	6年生で行う演技（競技）および練習内容の決定
コロナ対策	各演技についての審議、コロナ学習の全校発表
児童会	開会式及び閉会式の企画・運営、テーマの決定
プログラム	プログラム編成、プログラムの作成
実行委員	校長交渉、開閉会式の司会、選手宣誓

#### ○ コロナ対策

コロナについての学習を行い、対策にそった運動会を考えます。学習の際、上野山先生とのweb学習会も考えています。

### 4. 単元の目標

- ・安心、安全な運動会を企画・運営していくことができる。
- ・運動会を企画、運営していくことを通して、自分たちの学びや生活を支えてくれている人たちの存在を理解することができる。
- ・自分たちでよりよい学びや環境をつくっていくことの難しさや楽しさに気づき、これからの学校生活に活かしていこうとする。

### 5. 学習の経過

#### 6月3日の宿題

宿題として以下の内容のアンケートをとりました。

- ① 運動会が中止になっての正直な気持ち

- ② もし運動会を「企画」したり「運営」したりできるのなら、やってみたいと思いますか？
- ③ 運動会をすることで、どんな力がつくと思いますか？
- ④ 運動会を企画するとしたら、どんなことがしたいですか？

「りお」のアンケート

- ① 今年が最後の運動会だったので、家で泣くほど悲しかったです。中止になったけどやりたいと思いました。
- ② ぜひやってみたい。小学生として最後の運動会で親子であるのとか、リレーとか楽しいことがたくさんあったり、体力をつけたいからです。
- ③ 体力やみんなで何かをするときのチームワークがつかうと思います。
- ④ 親子である競技やルーや応援合戦などをしたいです。

発問②について、子どもたちの中からは「正直、暑くてしんどい。ただ、最後の運動会だからやりたい」という意見も見られました。これらの意見から「やらされている」「考えない」といった、運動会に子どもたちの主体性が見られないことがこれらの要因を引き出していると考えられます。

6月10日

それぞれの内容を簡単にせつめいしながら、運動会に関する自治調査を行いました。以下の調査は「りお」が答えた内容です。

	教師が 決める 解決する	生徒と教師で 決める 解決する	生徒だけで 決める 解決する	全校生で 決める 解決する	その他
運動会のテーマを決めるのはだれか？					児童会
全校生にアンケートをとるのはだれか？			○		
運動会を企画するのはだれか？		○			
運動会を運営するのはだれか？		○			
運動会の日程を決めるのはだれか？	○				
6年生の競技を決めるのはだれか？			○		
各学年の競技を決めるのはだれか？					各学年の生徒と先生
運動会の準備・後片付けをするのはだれか？			○		
校長先生に交渉に行くのはだれか？			○		
保護者や地域の人への案内をだすのはだれか？		○			
案内状をつくるのはだれか？		○			

6月17日

学校の「朝の会」の時間に各学年に6年生が行きました。はじめにアンケートの説明をした後、各学年の子どもたちにアンケートを行ってもらいました。アンケートの内容は、15日の授業の空いた時間に子どもたちと考えました。そしてこの日の休み時間に、アンケートの集計を行いました。

質問1 運動会をしたいですか？				
	めっちゃしたい	したい	あまりしたくない	したくない
1年生	15人	8人	2人	0人
2年生	20人	0人	6人	0人
3年生	15人	7人	1人	3人
4年生	9人	10人	4人	1人
5年生	5人	16人	2人	0人
6年生	20人	15人	0人	0人
全校集計	84人	56人	15人	4人

質問2 運動会をしたら全校生でしたいですか？学年合同でしたいですか？			
	全校生	2学年合同	3学年合同
1年生	22人	1人	2人
2年生	18人	6人	1人
3年生	14人	7人	0人
4年生	17人	4人	2人
5年生	18人	5人	1人
6年生	35人	0人	0人
全校集計	124人	23人	6人

質問2に関しては、質問の内容がよくわからず、無回答の児童もいました。

6月24日職員会議 ※職員会議提案資料は別紙参照

職員会議では、以下のものを提出しました。

- 運動会に向けて
- 子どもの感想①②
- 自治調査
- 全校アンケート

提案内容におおむね賛成してくれました。また、子どもたちの実態や全校アンケートなど、子どもたちの声があるのでとてもいい、ぜひおこなってほしいという意見も出されました。

ただ、以下の点が議論されました。

① 保護者をよぶのはいいが、テントはどうするのか

⇒今後の動向を見て判断する

② 休日ではなく、オープンスクールの延長として平日の開催にしてはどうか。いま、行事がすべてなくなっているため。

⇒については、平日開催で検討する

③ 南あわじ市では運動会は中止になったため、別の名前を考える必要がある

⇒実行委員が全校生から募集する

④ 全校アンケートの結果から「運動会をしたくない」と思っている子どもはどうするのか。

⇒運動会後の感想を比較して、今後の課題としていく

## 6月25日(木)

学級で「何のために新しい運動会をするのか」という話し合いをもとに、「運動会のテーマ」を考えました。

### テーマ決定までの流れについて

① 各学年で運動会のテーマを1～2つ考える

② 代表委員会で考えてきたテーマを持ち寄る

③ 児童会で、各学年のテーマをもとにテーマを考える

④ テーマの決定・全校集会で発表

考える前に「保護者をどうするのか」「これまでの運動会とどう違うのか」という意見を出し合い、一人ずつ考えていきました。※考えたことについては別紙参照

そのあと、テーマに入れたい言葉を考え、それをもとに児童会がテーマを考えました。

以下、2年生～6年生までの考えてきたテーマです。(1年生は代表委員会には参加しない)

2年生	みんなで力を合わせる運動会
3年生	コロナに負けずにがんばろう
	新しい運動会を考えよう
4年生	紛失(現在捜索中)
5年生	コロナに負けるな!!くじけずに立ち向かえ!!神代っ子
	コロナに負けるな 笑顔あふれる 神代っ子
6年生	願い・奇跡・創っていった コロナに負けない神代っ子

これをもとに考えていくのだが、「当たり前ことができなくなった今、これまでの当たり前とどう向き合っていくのか」ということもテーマの中に入れていってはどうかということ、現在、児童会が考えている。

児童会メンバー らいと、こうだい、あみる、りおん

## 7月2日 りおが実行委員に

はじめに実行委員を考えました。今の段階での実行委員の仕事は次の通りです。

① マスコットキャラクターの募集・決定

② 運動会に変わる大会の名前の募集・決定

③ 校長交渉

実行委員は4人程度と言っていたのですが、女子から3人、男子から7人が立候補してきたことで、放課後に話し合いで決めることにしました。りおも「自分からやりたい」と立候

補しました。特別支援の先生から「女の子が一人おちるのはかわいそうだし、りおちゃんにしてほしいから、男子3、女子3の計6人にしたらどうかな。」という提案があり、そうすることにしました。

放課後の話し合いで決定しました。

女子 ひじり（長）、ここね、りお

男子 かいせい（副）、はるき、かいせい

実行委員から外れた男子も「おれコロナ委員長になるからええで。コロナのこと勉強したいし。」「6年や全校の競技考えたいから、そっち行くわ。」とっていました。一応、全員が納得したかたちとなりました。

授業の後半には、運動会で行いたい種目を全員が出して、その中から「自分ベスト5」を決めて、振り返りを書きました。※別紙参照

今後の流れ

振り返りからもわかるように、コロナについて考えている児童が多数いるため、コロナについての学習を行いたいと思っています。「コロナについて考えること」をもとに話し合いを行い、その後上野山先生のweb授業を検討しています。校長先生も「ぜひやってください。お金がかかってもやってください。私も参加したい。」とってくれました。

8月までに授業を行い、子どもたちが「科学的知識」を身に着けたうえで、親にアンケートを行い、家で「子どもと親との話し合い」の場をつくりたいと思います。「鉛筆対談」などを検討しています。8月に入ってから個人懇談があるので、そこで保護者と運動会についての内容をお話し、協力、バックアップをお願いしたいと考えています。

※保護者、PTAへのお願いを行おうとしたら、校長から「そういうことは私にまかせてほしい。先生は全力で子どもと向き合しましょう。」ということでした。

コロナについての学習

7月7日「アンケート実施」 7月8日「アンケートをもとに交流」

7月15日「上野山先生 web 授業実施」 7月29日「免疫学習」

8月25日、26、27日感染症の学習

※詳細は別紙参照

○コロナ学習中（7月上旬～7月下旬）の実行委員と児童会の働き

**実行委員**

（1）運動会の名前とマスコットキャラクター

問題となったことが「運動会」という言葉が使えないこと。そこで、実行委員が中心となって、全校生に「運動会に変わる言葉」と「学校のマスコットキャラクター」を募集しました。児童集会で説明して、集まってきたものを確認しながら自分たちで名前とマスコットキャラクターを作っていました。

自分達の地域は、現在は神代（じんだい）と呼んでいるが、昔は神代と書いて「くましろ」

と呼んでいました。運動会の名前はそこから決定しました。マスコットキャラクターについては、「くましろ」という名前をもとに、キャラクターを作っていました。

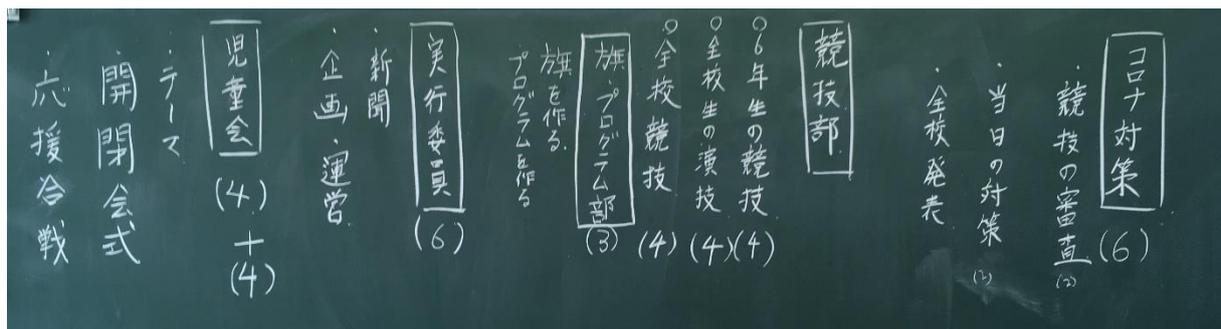


(2) くましろ祭新聞の発行

実行委員会や児童会で決定したことなどを、全校生に発信したいという意見（かいせい）が出され、「それだったら新聞を作って各学年に掲示させてもらうようお願いしよう。」ということになりました。そのあと、校長先生にお願いにいて、くましろ祭新聞を発行することになりました。※新聞は別紙参照

(3) 各役割の決定

7月22日の休み時間には、実行委員会を中心として、当日までの役割などを考える学習を行いました。



りおについて

実行委員の中で中心となって動いていたのがひじり、かいせい、ここねでした。りおについては、なかなかその中に入っていくことができませんでしたが、教師から「他の子にも仕事ふったほうがいいよ。」という言葉をかけ、少しずつみんなと活動を進めていくようになりました。

## 8月上旬 くましろ祭のテーマの決定

### 児童会

児童会も放課後に残ってテーマを考えていました。しかし、なかなか前に進まず、悪戦苦闘していました。そして、実行委員にも入ってもらって、1ヶ月以上かかって考えたテーマが決定しました。

# 当たり前を大切に 今こそ創ろう！ニューカルチャー ～くましろ祭 2020～

## テーマにこめられた思い

これまで当たり前にあっただけ  
とや生活が、失われた今、これま  
でのことに目を向け、これからも  
大切にしていこうとしたいとい  
う強い思い。

今、コロナで運動会や様々な行  
事がなくなっていたが、こんな  
ときだからこそ、みんなで知恵や  
アイデアを出し合いながら、新し  
いかたちのくましろ祭をつくっ  
ていきたい。また、自分たちだけ  
でなく、地域や保護者の人たちも  
笑顔になるようなくましろ祭に  
していこう。

そして、自分たちがつくった  
くましろ祭の、思いや願いをこれ  
からの神代小学校のみんなに受  
け継いでいってほしい！



## 7月27日 各部の決定

先週、実行委員を中心として運動会の役割を考えたものをもとに、各部を決定していきました。決定後、活動内容や決意表明などを部内で考えました。

各部	メンバー	決意	活動内容
コロナ対策部	たいが、らいな、けんとうたろう、げんと、ゆうり、ゆう	くましろ祭を安心、安全に行えるようにする	競技の審査 感染症学習の発表 運動会当日の対策
6年生競技	いっき(委) るきと(副) ななか、そうま	全学年が楽しめて、安全な競技	全校競技を考える

全校生 演技	ゆうせい、たくと ゆい、なおき	みんなが楽しめる 演技をきめる	全校生の演技を決める
全校生 競技	るな（リーダー） ゆな（副）、なな	密にならないよう な競技を考えよう	全校競技を考える
プログ ラム・ 旗	そら、みひろ、のの りさ、まひろ	旗作りはデザイン が難しいが協力す る	旗作り プログラム作り
実行 委員	ひじり（委）かいせい（副） はるき、りお はづき、ここね	みんなが楽しめる くましろ祭を創り 上げる	企画、運営 くましろ祭新聞の発行
児童会 部	りおん（委）あみる（副） らいと、こうだい じんと、ひろや	みんなが楽しめる 最高のくましろ祭 にする	テーマの決定 開閉会式 応援合戦

7月27日には各部が決定し、それぞれの活動に入っていました。各部の大まかな活動の流れは別紙エクセルファイルを参照してください。各部が同時並行で、主に休み時間や放課後に活動を行っていますので、把握しきれていないものもあります。

#### 7月29日 保護者にくましろ祭についてのアンケートの実施

学年通信で保護者にくましろ祭についてのアンケートを実施しました。

くましろ祭2020（例年の運動会のような行事）を行うにあたり、保護者の方の忌憚のないご意見をいただきたいと思います。「子どもと普段話をしていること」「〇〇のようなくましろ祭にしてほしい」「コロナは大丈夫？」など、色々と思うこと、考えることもあると思います。ご協力よろしくいたします。

多くの保護者から意見を頂きました。少し紹介します。

運動会開催にあたってのご検討、大変嬉しく思っています。6年生最後の運動会となる年に、このような状況で運動会の開催中止と連絡を受け、状況が状況だけに、仕方が無いかな・・・と思っていましたが、正直、悲しい気持ちの方が大きく、どんな形でもいいので、思い出に残る運動会をやってほしいなという思いでした。特に意見はありません。子どもたちが考えた神代っ子らしい「くましろ祭」になればと思っております。現時点でも、コロナ感染者が増加傾向にあり、感染対策も大変だとは思いますが、今までに無い形での「くましろ祭2020」になることを願っております。

色々な事がコロナにより「従来通りに」ということができなくなり、がまんしなければならぬことがたくさんある中で、子どもたちが話し合い、くましろ祭を開催することに賛成します。6年生にとって、運動会はとても大きな行事だと思いますし、子どもたちの成長を間近で見ることができるので、保護者にとって楽しみな行事ですので、くましろ祭も応援し

に参加したいですが、たくさんの観客がいると観戦のリスクが高まるようでしたら、子どもたちだけで行う方がいいのかなと思います。写真やビデオ撮影、またはさんさんネットなどで様子がわかると嬉しいです。そして、子どもたちの“家族に見てもらいたい”という気持ちにも添えるといいなと思います。子どもたちの記憶に残る行事になることを願います。

そして、個人的にはくましろ祭へ向けて、子どもたちの話し合い、悩み、考え、進めていく過程にとっても興味があり、途中経過の話の家で聞くことを楽しみにしています。

運動会が中止になったとお知らせがきて、とても残念だったので、このような企画をして頂いて嬉しいです。小学校生活最後なので、思い出に残る楽しいものになればいいなと思います。例年どおりの行事はできないかもしれないけど、子どもが「こんな企画を考えられる、実行委員などができて頑張る」とやりがいを感じているのを見て、自粛の中でも自分たちでできることをやろうという姿勢は素晴らしいなと思います。

## 8月7日 鉛筆対談

夏休みの宿題で、親子での鉛筆対談「くましろ祭について」「コロナウイルスについて」「修学旅行について」（テーマは自由）を行いました。

くましろ祭についてのえんぴつ対談を少し紹介します。

### あみる家

あみる コロナで運動会なくなってもうたなあ。

あけみ そうやなあ…あみるの学年では、どんな風になるか楽しみにしてたのに…親子競技で顔白くなるの見たかったわ

あみる でも、そのかわりに自分たちでつくる『くましろ祭2020』ができたなっ！

あけみ どんなんなるか楽しみにしてるで〜どんな事するん?? 教えてくれるん??

あみる 教えるって言っても…。まだあんま決まってるし、いくつかに分かれてるから何が決まってるか知らんよ。

あけみ そっかあ…とりあえず、楽しみにしてるよ。色んな案出し合ってるんやなっ！これも思い出や

あみる 内容決めるんも、コロナゆうせんやからちよっとしんどいって思うこともあるけど頑張り時や！

あけみ 頼もしいやん！！「コロナ」にはホンマに振り回されるけど頑張ってるな

あみる うん。あみるも楽しんでもらえるように頑張る！誰の子やと思ってるん？

あけみ おっ！！オカンの子やったわ(大笑)皆と協力してな！

あみる うんっ！

### りさ家

母 運動会が中止で残念やね。

自分 うん。今年で小学校の運動会最後やからなあー。でも、小さい運動会があるよ！

母 そうやな。お兄ちゃんのは、みれても、みれらんと思ってたからなあー。

自分 はじめて運動会のきかく考えるから、運動会がうまくいけばいいなあー。

母 できることに感謝やな！係なんやった？  
自分 プログラム作りと、旗つくりやでー！  
母 そっか。順調にできてる？  
自分 うん。みんなで、旗のデザイン考えて、次から色ぬって、デザインをかいていくところ！プログラムは、種目が決まっていなからまだかな。  
母 自分たちで考えらなだめやから、よく話しなといけなね！  
自分 うん。下の学年のことも考えなといけなからね！難しいけど、楽しい！  
母 こんな事ないから、頑張らなとね！  
自分 うん。初めて自分たちでつくった運動会をみんなに見てもらいたいなあ。  
母 めっちゃ楽しみにしてよ！  
自分 楽しみにしててねー。でも、コロナ感染者増えらんかったらいいけどなあー。  
母 そうやなあー。そこやなあー。コロナ感染者減るようによのっておく！  
自分 うん。うん。悪いことばかりやったけど、少しはいいこともあるんやなあー  
母 成長した姿みたいから、みんなのことを考えながら思い出に残る運動会にね！  
自分 はい！いつもやったら、成長してるところよく考えなとわからんけど成長するよ  
うにがんばる！  
母 がんばれー！応援しているよ！  
自分 うん。ありがとう！めっちゃがんばってくるよー！

#### たくと家

琢人 運動会するのしつとんだー  
母 しつとるよー。コロナやけどちゃんとできるかなー？  
琢人 今競技考えてるけどなかなか決まらんねん  
母 そーなんやー。ほな、今までいろんな競技とか決めてた先生すごいな！リレーはあるんや  
ろ？  
琢人 リレーはぼくのグループじゃないから分からんけど、たぶんあると思うよ  
母 琢人は、何を考えてるグループなん？  
琢人 ぼくは、全公演技を考えてるけど、何も決まらんねん  
母 えっ！全校演技ってどんなん？  
琢人 全校演技は、ダンスとかおどったりするやつ  
母 ダンスは、練習する期間もいるから、なかなか大変じゃない？  
琢人 でも去年とかも5月やったし期間は大変じゃないよ  
母 なるほど！がんばってなー  
琢人 うん。でも今南中ソーランしかアイデア出てないからけっこう難しいねん。なんかアイデアあ  
る？  
母 ドリフターズの全員集合のやつは？ ババンバ バン バン バーン♪ て。(笑)  
琢人 たしかにそれいいけど、はずかしがってしっかりしいへん人でそうやな(笑)  
母 女子ははずかしいか！！  
運動会見たいわ。思い出に残るようがんばれ！

琢人 うん。がんばる。でも、南中ソーランも密になるし、これまでに一回やったから、いやっていう人が多いねん。

母 一回やってたら。もうええわって思うんもわかる。いろんな先生に好きな歌やダンスを聞くんも何かいいアイデアにつながるかもよ！

琢人 たしかにそれもいいかも。今度聞いてみるわ。

母 ちなみに、私はドリフターズな！（笑）

こんだけ悩めるんも、6年最後やから楽しみながらやりよ！！

琢人 うん。じゃあ運動会見にきてね

母 見に行っても OK なら行くわ！

琢人 たぶん見に来てもいいと思うから OK やったら楽しみにしといて

母 わかったー。

## 各部の主な活動内容

※活動の流れや活動内容は別紙「各部の活動内容」を参照してください。

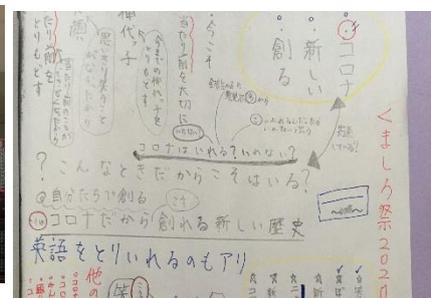
### 実行委員

- ・くましろ祭新聞の作成
- ・キャラクター・名前の募集と作成
- ・テーマの検討
- ・競技名、演技図、放送原稿等の作成、お願い、集約
- ・校長交渉
- ・職員交渉
- ・当日のコロナ対策
- ・事後アンケートの検討



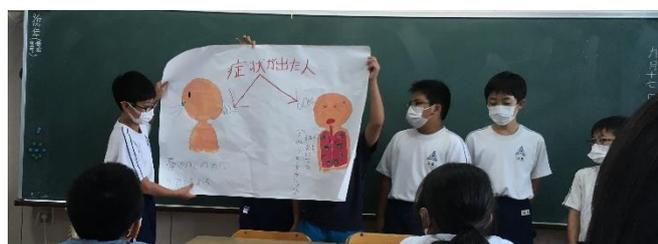
### 児童会

- ・テーマの検討
- ・開閉会式の検討
- ・応援合戦
- ・入場行進
- ・放送原稿
- ・引き継ぎ式



### コロナ対策部

- ・感染症発表内容の検討
- ・発表内容の撮影、配信
- ・各競技の審査、コロナ対策
- ・当日のコロナ対策



- ・保護者対応
- ・開会式での注意

○くましる祭を行うにあたって  
 競技中マスクは、外しますが無駄な話  
 しないでください。  
 トイレは、外のトイレを使ってください  
 い。どうしても中のトイレに行きたい場合  
 は中のトイレを使ってもよいです。  
 消毒は、競技が終わってテントに戻ると  
 きに必ずしてください。バトン等の道具は  
 使用してもいいですが、使用した後は必ず  
 手を消毒をしてください。  
 ※道具の消毒はコロナ対策部で行います。  
 自分たちが座る椅子は、かんかくを開け  
 て置いてください。  
 並んでいるときや待っているときは人  
 とのかんかくを十分（１メートルぐらい）  
 にあけてください。  
 応援するときは応援グッズなどを作っ  
 て、声を出さないようにして下さい。  
 テントの中ではマスクをつけるよう  
 しましょう。



#### 全校競技

- ・玉入れの決定
- ・玉入れの内容の検討  
 各色ごとに低・高に分かれて投げる  
 各色のメンバーが一斉に投げる。
- ・コロナ対策
- ・入退場、競技中の音楽



#### 全校演技

- ・南中ソーランの決定
- ・ハッピーの確認、配布、回収
- ・全校生に演技の様子を撮影、配信
- ・1, 2年生に教えに行く
- ・3年生に教える
- ・全校生の配置、入退場

#### 学年競技

- ・親子競技
- ・競技内容の検討
- ・準備物の確認

#### 旗・プログラム部

- ・旗の作成
- ・プログラムの作成、配布
- ・コロナ対策の札の制作
- ・演技図の制作



## 10月12日 実行委員職員交渉

実行委員長（ひじり）と実行副委員長（かいせい）が職員室にくましろ祭後に、全校アンケートと先生用アンケートのお願いにいきました。事前に職員間で打ち合わせを行い、少し厳しい質問もしてもらうようにしました。

「なぜくましろ祭を行おうとおもったのか。」

「どんな思いがあるのか。」

「くましろ祭でないといけない意味」

「来年度にどうつなげていくのか」

※詳細は NHK の映像を参照

10月12日の全校練習のまえに6年生を代表して「らいと」と「あみる」が全校生に向けて「これまでくましろ祭をつくってきたことやくましろ祭にかける思い」を語りました。

「くましろ祭2020」にむけて、ぼくの想いをみんなに伝えます。

今年は、新型コロナウイルスの影響（えいきょう）で本当なら五月に行われる運動会ができなくなりました。六年生にとっては最後の運動会だったので、中止と聞いたときはすごく残念な気持ちになりました。でも、こうやって「くましろ祭2020」ができることになったのは、六年生の熱い思いがあったからだと思います。

「くましろ祭」に向けての話し合いがはじまったころ、最初にテーマを決めることになり、放課後まで長引くようになりました。「早く帰りたい、遊びたい」と思う人もいました。でも、自分たちでつくる「くましろ祭」だから今は「くましろ祭」を成功させたい！成功させるぞ！という気持ちが大事だということをみんなが気づくようになりました。

みんなの気持ちの一つの目標に向かってからは、それぞれの役割でおたがいに意見を交換しながら、こういうふうにした方がいいんじゃないか？とか、こうしよう！という話し合いがどんどん進むようになりました。いざ練習がはじまると、下級生に教えることのむずかしさを知り、大変だと思ったけど、下級生との交流を増やすためのいい機会だとも思いました。

当たり前が当たり前でなくなった今、コロナ渦でも全部がなくなったわけではありません。色んなことができるんです。来年も同じような状況になったとしても、五年生のみんなが全校生の代表として下級生を引っ張って行ってほしいと思います。

先生方、僕たち一つになってがんばるので、ご協力よろしくお願いします。

らいと

今年初めての試み「くましろ祭」5年生の皆さん、6年生を支えてくれてありがとうございました。4年、3年、2年生の皆さん、南中ソーラン大変だったと思いますが、元気におどってくれてありがとう。1年生の皆さん、初めての運動会が中止となり、くましろ祭に向けての練習、大変だったと思いますが、しっかり覚えてくれてありがとう。

私自身、くましろ祭を行うにあたり、感謝の気持ちでいっぱいです。企画から自分たちで行う大変さはいい経験になりました。何度も話し合っにつくってきたくましろ祭には色んな行事がなくなった今、下を向くだけでなく、こんなときだからこそ前を向いて、自分たちはもちろん、家族や地域の人にも元気を届けたいという思いがこめられています。

あみる

10月14日 くましろ祭当日

NHKの取材（8日～14日）

コロナ対策は主に6年生

道具の準備は各学年が主に5年生

くましろ祭の前日や当日、後日に各学年からお礼のお手紙などをもらいました。

## ～ 1年生、4年生からのプレゼント ～

くましろ祭からの一夜明けた昨日、1年生と4年生から思いのこもったプレゼントがとどきました。1年生のみんなは、これまで「南中ソーラン」や「応援合戦」など、6年生のみんなが自分たちのために必死になって計画してくれたり、教えてくれたりしたことがとてもうれしかったみたいです。

4年生からのプレゼントには、みんなが楽しむことができる「くましろ祭」を企画してくれたことへの感謝の気持ちがつまっていました。そして、来年は自分たちも創っていきたいという強い思いが感じられました。頼もしいですね。昨日が終わりではなく、神代小くましろ祭の新たな歴史のはじまりだと思うととてもわくわくしてきます。



### くましろ祭当日の制野先生のインタビュー

10月14日 南あわじ市立神代小学校 「くましろ祭」インタビュー記録メモ

2020.10.14.制野

#### 1. 校長への聞き取り調査より 〈インタビュアー：玉腰，制野〉

① 今回の企画を校長として開催判断をした経緯を教えてください。

岨先生は子ども達のリーダー性を育てたいと考えた。中学校でのリーダー育ての経験から、私も何かしたいなあと思っていた。「くましろ祭」の前から、教室での自習の様子などを見て「この小学校の高学年は十分に主体的な活動ができる」と感じていた。

② 他の教員から異論や反対は出なかったか。

出なかった。むしろコロナ学習や平和学習をある学級が行うと、他学年に波及していくくらい連携は取れている。誰かが何かをやると繋がる職場である。

③ 南あわじ市は運動会の中止を決めたが、それに対してこの取組を行う上で葛藤はなかったか。

市の決定よりもまず先生たちの思いを尊重した。教員一人ひとりの積み重ねた経験を大事にしたいと思った。

④ 子どもたちの姿勢はどんな取り組みで育つと考えているか。

子どもが自ら学ぶ姿勢は各学年でそれぞれ考えている。授業の中でも育てていると思う。また、5年生ははじめ「協力したくない」思っていたようだが、多くの児童がいればそれが当たり前である。それから5年の担任が6年生の思いを受け止めさせる指導を行い、今日のよ

うな引き継ぎに至った。

- ⑤教師間の連携について、校長としてどのように考えているか。

岨先生が詳しい企画を出してきたのは三週間前と遅かった。それでいろいろな意見が出たが、真剣に話し合うというのは、みんなが主体的になっているということでいいことだと思う。また、私の姿勢としては、「初めてのことからしゃーないことやで」と思っており、先生たちにもそう話していた。

- ⑥今回の取り組みで良かったこと、逆に課題だと思ったことは何か。

良かったことは、一つの目標に向かって取り組んだこと。「こんな経験ないぞ」「しんどい時を楽しもう」と話していた。課題は、先生方それぞれに新しい発想があるのに、それがなかなか表に出てこないこと。

- ⑧今回の取り組みの校長としての評価はどうか。

子どもの成長は行事でなければつukれない。今月の月間目標（「6年生に協力する」）は4年生から出てきた案だった。全校で6年生を支えようという雰囲気があった。これは行事を通してしか得られないこと。5年生への引継ぎを見ればわかるが、思いを形にして伝える方法、表現力などは行事でしか育てられない。

- ⑦コロナ禍の中でやり切った意義や、コロナだからこそ得られたものは何か。

子どものやりたいという思いを何とかバックアップしたいと考えた。その中で新しい歴史をつくった。自分たちでつくったという自負もある。地域を勇気づける、元気にする取り組みができた。

## 2.教員インタビューより〈インタビュアー：制野〉

- ①6年再任用・山口先生

6年生としての自覚はすごくあったし、6年生の動きとして素晴らしい。運動会と言っても予行練習はなく、司会もすべてアドリブ。岨先生から厳しく指導をされたこともあったが（後に謝った？）、それに対して子どもたちは自分達で企画を立ち上げたにもかかわらず十分に力を発揮できず、先生に頼ってしまったことを率直に悔やんでいた。ある子どもは「先生には感謝している」と語っていた。岨先生は子どもに近い存在。今回は実行委員には普段大人しい子どもも入っており、普段なかなか陽の当たらない子どもも役を与えられ、それぞれの分野で活躍していた。

- ②5年再任用・細川先生

5年生の授業は落ち着いている。「自分たちでやろう」とする習慣がついている。上級生がやっているのを見て「自分たちもやりたい」と思っている。とても協力的で、昨日も子どもたちがアイデアを出し合ってメダルを作り、6年生が帰ったあとに教室に届けた。多くの学校を回ってきたが、こういう場面はあまり見かけたことがない。

- ③養護教諭・？

〈「養護教諭として不安はなかったか」という質問に対して〉地域的にコロナが流行することはなかったので、何とか大丈夫ではないかと思った。これまでは決まっていることをただやってきたが、今回は子どもの声から出てきたことだから自分も協力しようと思った。

- ④4年担任・森先生

4年生が全校の前に出ていくのはまだ難しいが、日記などを読むと6年生の姿は良く見えてい

るのがわかる。6月から少しずつ変化しているのがわかる。もし自分がこのまま持ち上がるとしたら、この4年生にも同じことをさせたみたい、実体験させたいと思っている。岨先生は子ども主体に物事を考えていて、自分もすごく尊敬しているので、「ぜひ協力したい」「いけるんじゃないか」と思いこの企画にすぐに同意した。大人の事情だけではダメだと思った。6月はいろいろな意味で修正をするのが大変だったが、今は子どもたちが伸びていっているのがわかる。子どもがメインであり、考えさせ動かすことを心掛けている。自治的な活動は必要だと思う。岨先生曰く「発表させたとき、イレギュラーな質問が来ても対応させたい」というのに共感している。失敗は多々あるが、不登校の子どもが学校に来はじめるなど、小さな変化も嬉しく思えるようになった。

### 3.6年生の保護者インタビューより〈インタビュアー：制野〉

#### ①藤本夫妻…リーダー

子どもの自主性は大切。家では運動会のことをよくしゃべるし、「どないしょ」「どうしたらええん」とよく相談されていた。行事を中止するのは簡単。この企画を聞いた時、「この時期しかない」と思った。賛成あるのみ。〈父〉

家ではよくリハーサルをやっていた。〈母〉

#### ②吉田母

家では「コロナの中で新しい歴史がつかれる」と喜んでいて。逆に「ラッキーな年」とも言っていた。多くの行事がなくなり、親たちはショックを受けていたが、6年生になってからの成長を感じている。家では「親子種目何がしたいん?」「自分たちで考えてん」と話していた。「くましろ祭」が決まってから、下級生の意見をよく聞くようになったと思う。ここまで企画が進んでいるとは思わなかった。

#### ③仲野母

家では「サプライズだから」「見ないで」と言って、部屋でみんなとラインなどを通して踊りや応援の練習をしていた。「僕たちが創っている」「ホンマに創る」と言っていた。3年生の妹も6年生の頑張りに応えたいと思っていたし、1・2年生にもそれが伝わっている。この企画はぜひ続けてほしい。実行委員が職員会議に出たというのを聞いて驚いた。

#### ④仲郷母

普段は係や役を自分から進んでやるような子どもではないが、家では「見とってな」と言っていた。学級通信のみんなの書いている作文を読んで、「こんなこと考えてたんだ」と思って感激した。今まで表立ってやるのがなかったが、頑張る場所があるので良かった。

## ～ 来年度の運動会に向けて ～

5年生をはじめとする下級生に自分たちの「くましろ祭」を引き継いでもらいたいという思いもあり、実行委員を中心に全校生と先生方にアンケートをとることになりました。実は、10月12日（月）に、実行委員長のひじりさんと副委員長のかいせい君が職員室にいて先生方をお願いにいきました。そこで先生方から頂いたご意見をもとに、全校生にアンケートをとる予定です。各学年と先生方のアンケートの内容を考えるグループは次の通りです。

1年生	げんと そうま なおき あみる ななか ゆな
2年生	たいが そら はるき りさ こうたろう らいと
3年生	いっき ゆうり こうだい りおん たくと のの
4年生	なな りお ゆう ゆい じんと
5年生	らいな けんと みひろ はづき るな ひろや
先生方	かいせい ひじり まひろ ここね るきと ゆうせい

また、6年生児童、6年生保護者にもアンケートをとっています。  
集計はまだできていません。

## 6 運動会後の児童の作文

### 「帰り道と友達」 ひろや

くましろ祭でテーマを考えていた。テーマというのはとても難しく、テーマの内容で競技が決まるほどだ。いつも放課後に残って考えた。何日も何日も考えた。先生からもアドバイスをもらったこともあった。夕方ぐらいまで残ったこともあった。

帰り道るとき、「なんでこんなに難しいの。」と自然に言葉がもれた。「こんなの決まるのか。」と終わりが全然見えなかった。友達も、とても不安そうな顔だった。でも、らいと君はちがった。らいと君は、絶対できるという思いが顔にうつし出されていた。ぼくもその顔を見て、とてもやる気が出た。みんなもつられてやる気になっていた。

ついにテーマが決まった。とても達成感があった。ぼくは、友達はとても大事ななと思った。もし友達がいなかったら、テーマが考えられなかったと思った。

つかれたときの帰り道は、ぼくにとってはなぜかほっとする場所だった。

### 「かがやくテーマ」 あみる

テーマがやっとかざられたとき、何度もテーマについて話し合ったことや5年生のみんなが「テーマこれでいいですか？」と聞きに来てくれたこと、いろんなことを思い出した。

位置や角度をチェックするために下にいた私が、遠くから見てもバッチリか確かめようと一歩後ろに下がったとき・・・

校舎の影となって見えなかった太陽がテーマと重なった。まぶしくて一瞬しか見えなかったけど、そのときのテーマはかがやいているようだった。そのあと、風にゆられて破れてしまい、二階までダッシュしたことも忘れない。ただ、何度も何時間もかけて考えたテーマがかがやいていた瞬間はもっと印象的だった。

「当たり前を大切に 今こそつくろう ニューカルチャー ～くましろ祭2020～」

この言葉が大きくかざられたとき、くましろ祭が成功してほしいとあらためて思った。  
テーマにこめた思いをこれからも大切にしていきたい。

#### 「過去最大の緊張の放課後」 かいせい

職員室に入る前、先生たちが話し合っていた。圧がすごくあって、とても緊張していた。職員室に入ったとき、先生たちが僕の方を見た。そのとき…強い風が吹いてきたようで、立ってられないくらいだった。頭が真っ白になりかけたが、なんとか立ち上がって話始めることができた。

話が終わり、質問タイムになった。まず、坂部先生が手を挙げた。僕の頭の中では、坂部先生と藤家先生から質問がくることはわかっていた。

いくつかの質問のあと、ついに藤家先生が手を挙げた。藤家先生は、「なぜ、あなたたちは実行委員になったのですか。」と聞いてきた。ぼくはあせりながらも、「企画力や運営力などの力がつくから。」と言った。これで終わりかと思ったら、次はこう言われた。「企画力や運営力をつけるのに、なぜくましろ祭じゃないといけないのか。」ぼくはとまどいをかくせず、少しだまりこんでしまった。「この質問をどう答えたらいいんだろう。」考えがまとまらないまま、ぼくはしゃべりだした。「くましろ祭というのは運動会の代わりだから・・・学校で一番大きい行事は運動会だと思うから・・・大きい行事だから・・・企画力や運営力がいっぱいつくと思うからです。」

そのときは立ってられないくらいで、泣きそうになったけど、職員室にいるときは頑張ろうと思った。

このあと、自分でよく頑張ったなと思った。

#### 「協力」 ひじり

児童会とテーマ決めをすることになった。最初は単語を出していった。はるきが「コロナに負けるなとかどう？」と言った。そしたら児童会の子が「どうなったら負けで、どうなったら勝ちなの？」と言われた。私は「なるほど!」「そこまで考えているんだ!」と思いきいと思った。

「放課後もするで!」と言われて、少しテンションは下がった。「放課後もせなしょうがないやん。おれらが動かなみんな進んで!」と言われて。私はその言葉がグサッとささった。納得して、そうだなと思い話し合いを進めていった。そのときは、コロナというワードを入れるか迷っていた。このくましろ祭はコロナがきっかけで創られたものなのでとても悩んだ。私は「当たり前を大切に」というのがすごくいいと思った。とりあえず単語をつなげてみようことになった。みんな意見を言い合って、最初は「笑顔・文化・創る 当たり前を大切に」という意見だったけど、英語を入れてもいいんじゃないかという案もでてきた。「なるほど、それもいいな。」と思った。「新しい文化…ニューカルチャー」もいいと思った。先生のアドバイスもあり「当たり前を大切に 今こそつくろうニューカルチャー」になった。とても印象に残った。

#### 「最高のコロナ対策チーム」 こうたろう

ぼくはコロナ対策部だった。

ある日、いつもみたいに話し合いをしていると、いつもみたいに意見が分かれた。時々あるケンカになった。ぼくはとても腹がたった。「仕事はちゃんとしろよ!」「はあ!?ちゃんとしてるし!!」もうぼくもみんなもあきれて、作業をしていた。

そんなとき、ぼくの間にゆうりが立った。二人ともゆうりに、「何!?何よ!!」と言った。でも、ゆうりは少しだまっていた。ぼくはその数秒がとても長い時間を感じた。そして、ゆうりが「やめっ!」と一言。その場はおさまった。

そのあと、普通に作業をしていたが、実はずっと考えていた。「いつもケンカばかりしている。」みんなだまって作業をしている。

「なぜこんなにケンカばかりするのか?」

くましろ祭のため、下級生のために自分なりに必死で考える。コロナ対策部にはそんな人しかいないということに気づいた。

みんなのために全力をつくす。そんな子しかいないコロナ対策部は最高のチームだと思った。

### 「帰り道が長かった」 りお

くましろ祭を創るのに実行委員に入った。実行委員は、児童会の人たちとテーマを決めた。でも、テーマでくましろ祭の内容が決まってくるのでなかなか決まらなかった。ちょっとでも役に立てるように、帰り道、必死になって考えた。「コロナ」という言葉は入れた方がいいのかについて考え、テーマに当てはまる言葉を考えていた。自分的には入れなくてもいいと思ったが、テーマに「コロナ」を入れたいと思う人の意見もほしいなと思った。

テーマに当てはまる言葉は、今までなかった「自分たちで創る新しいかたちの運動会」から、「創る」「新しい」「歴史」というのを思いついた。そのまま「創る」というふうに入れたらおかしくなるから、私の中で「創る」を「創った」にしたらいいかんとか、こうしたらテーマに合うかなとか、その言葉をちょっとずつ変えて言葉をつなげていきました。みんなで話し合うときもちょっと意見を出せし、役に立てたと思う。このときの帰り道は長かったと感じた。



## 7 課題

### 1 「来年度、引き継ぐことができない」

⇒ 組織の不明確

来年度、私がやってきたことを誰が引き継ぐことができるのか。

一人の先生への負担が大きすぎる

⇒ 実行委員をはじめとする組織をしっかりと確立する必要がある  
各学年の代表

全校演技担当、全校競技担当、応援合戦担当などを考えておく

### 2 子どもの自主性と教師の指導性

- どこまで子どもたちやくまし祭に求めるのか  
「どこまで子どもたちの中に入っていったいいのかわからなかった（玉入れ担当の先生の声）」  
「放送原稿の内容が不十分」
- 今回は行うこと、子どもたちが先生と関わりながら演技や種目を考えていくことの意味  
⇒これまでの運動会は教師が指導したり、演技図、放送原稿は教師がつくったりしてきた。  
◎これまでと今回の内容のズレ

### 3 6年生の思いが低学年に伝わってこない

- ⇒各色のグループの応援合戦の練習の際、一部の6年生だけが必死に教えてあとは傍観者になっていた事実
- ⇒応援合戦の練習の役割分担や計画が必要  
応援合戦が片手間（2足、3足のわらじをはいての応援合戦・・・  
なかなかそこに力を入れることができなかった現実
  - 今回の応援合戦での目的をしっかりと明確にしておく必要性  
コロナで縦割り班の関わりがなくなってしまった学校生活  
関わり場をつくりたい。  
⇒応援合戦の設定「こんなときだからこそみんなが楽しく関われること」  
音楽の選曲ミス 6年生が好きな音楽、ふりつけ  
みんなが知っている音楽を選ぶ
- 10月12日の全校練習のときに、6年生の代表2名がこれまでのことやくまし祭にかける思いを語る

### 4 コロナ対策について

- 先週に各学年の演技図が集まってくる  
コロナ対策部の各学年の競技の対策を考える。 ⇒ 報告
  - 競技内容が不明確  
コロナ対策部が事前に担当の先生に競技内容を確認に行くこと  
競技の映像などをとっておく

以下は制野先生からのコメントです。

MCの最後の「教育の本当の姿を見たような気がします」という言葉に触発されて、先生たちもいろいろ考えさせられたようです。コロナ以前からそうなのですが、今の学校は「子どもの主体性」という発想がほとんどありません。2017年に文科省が「主体的な学び」(アクティブラーニング)を打ち出しましたが、「そんなこと言ってもねえ…」というのが現場の率直な反応です。授業では膨大な学習内容

がそのまま残存し、「英語必修」「道徳の教科化」「プログラミング教育」などが導入され、ますます業務が多忙になっています。それに加えてコロナの追い討ちです。「形だけの主体性」は全国そちこちにあるのですが。

東京の若手教師は、「ああいう実践をしたい。でも、東京はすべてトップダウンだから難しい」、大阪の先生は「単学級ならできるかも。必ず横やりが入るんですよ」と言っていました。それだけ厳しい状況の中で先生たちは何とか子どもの声を拾おうとしています。ちなみにその大阪の先生はどうしてもリレーを走りたくないという子どもに、その子の大好きな鮭の模型を手作りで制作し、それを持たせたら凄い勢いで走り始めたと言っていました。涙ぐましい努力です。

私が話を聞く中で、神戸大学の特別支援学校の若い先生の「どんな障害のある子どもたちでも『主体性』はある」と語ったのが印象的でした。それは子どもたちにとって、不自由さや不都合さを自覚した時に現れるというのです。「やりたくない！」から始まり、「もっとこうしてほしい！」「自分たちはこれがしたい！」とわずかな言葉と態度で示すそうです。

今回の放送も子どもの不自由さ、不都合さの自覚から始まっています。大事なのはここです。教師が子どもたちの不自由さに気づけるかどうか、さらに子どもたちに生きづらさを自覚させられるかどうかです。ここに教師がコミットすることが全ての始まりで、岨先生の取り組みの第一のポイントはここです。子どもの声を引出し、聴い取り、寄り添ったのです。

さらに五年生の担任は子どもたちを鍛え上げようとしています。ここが第二のポイントです。「主体性」は「今ここにある」わけではなく、鍛えないとその輝きが発揮されません。あの五年生の担任のコメントはさすがでした(社会科の民間研で学んでいるようですね)。

あとは第三のポイントは「職場づくり」です。管理職を含め「同僚性」が発揮されていました。岨先生の気づかない点は周りの先生たちがフォローアップしてくれていました。四年生の担任は「私がもしこの四年生を持ちあがれるなら、“くましろ祭”をやってみたい」と語ってくれました。